

## 単元名【地域に生きる 一防災一】42H

### A 発見課題 自然災害が起こったら、どうなるのかを考え、交流しよう。 2H

地震が起こった時、どんな事を感じたのかな。

災害が起きたとき、どのようなことが起こるのか考えてみよう。

被災したら、だれかが助けているのを見たことがある。だれなのかな。

こわいな。どこに逃げたらいいのだろう。

建物がくずれたり、道路が寸断されたりするなあ。

他人の命を救ってくれるのは誰なんだろう。

災害が起こって、被害が出ても「人」がいることで、助かる命がある。救助したり、建物を直したり、ボランティアの人人がいたりする。災害が起きたとき、どんな人がどんな動きをしているのだろうか。

### B 追究課題 自然災害から命を守るために、だれがどんな働きをしているのだろう。 8H

自然災害から人々の生活を守るためにどんな仕事があり、どんな思いで働いているのだろう。

自然災害の被害がぐっと減っているのはなぜか考えよう。

日本・京都府・京都市では自然災害を防ぐためにどんなことをしているのだろう。

北区や紫野小学校区では、自然災害から人々の生活を守るためにどのようなことをしているのだろう。

自然災害が起こったら、地域の人が自分たちの生活を守ってくれるのだけ。

北区役所ではハザードマップを作ったり、地域の防災訓練に参加したりしているのだけ。

自分たちの知らないところで、たくさんの方が復興支援に関わってくれている。

紫野地域でも、自然災害が起こったら、被害が大きくなる危険がある。いつ、何が起こるかわからない。自分たちに何ができるとは何だろう。

### C 提案課題 自然災害から命を守るために、自分たちにできることを考えよう。 10H

みんなに知らせるために、地震の大きさについて考えよう。

避難するときに、気を付けなければならないことは何だろう。

自然災害が起きたとき、どんなことを備えれば良いだろう。

地震の大きさによって、避難方法が変わるね。

町あるきをして、校区の中でどこが危ないか、確認してみよう。

地域の方といつでも助け合えるように、いつでもあいさつができるように、あいさつ運動にも取り組もう。

全校のみんなが分かってくれたか、アンケートを取ろう。

考えたことを全校のみんなにも伝えよう。

自分達の達成感はあった。だけど、アンケート結果を見ると、ポスターや動画だけでは、全児童には伝わっていないし、紫野校区の安心・安全は守ることができていない。みんなに分かってもらうためには、自分たちの「防災意識」をさらに高めていかなければならない。その上で、次は全児童に参加してもらえる「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」を開催したい。

### D 熟成課題 紫野校区の安心・安全のために、自分たちの「防災意識」をさらに高めよう。 10H

「防災」についての疑問やもっと調べたいことを出し合おう。

紫野校区のぼうさいマップを作成して、地域・全国へ発信しよう。

自然災害について、さらに詳しく調べよう。

防災パックが必要な理由は何だろう。

自分達のもつ疑問は、全校のみんなも感じていることだと思うから、まずは自分たちで解決して、全校に発信したい。

ロイノートやNHK「ぼうさいマップを作ろう」を使って、まとめよう。

THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022 を開催しよう。

「防災意識」を高めることができ、全校に伝えることがもっと見つかった。「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」では、全校、そして紫野校区全体にも呼びかけ、楽しんで学んでいけるようにしていきたいな。

### E 表現課題 紫野校区の「防災意識」を高められる「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」を開催しよう。 12H

体育館で、実際の避難の仕方を伝えよう。

学年に合わせて、絵本にしたり、動画にまとめたりして、伝えたいな。

避難の方法や、校区の危険な場所などを動画で発信しよう。

「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」を開催した後も、紫野校区のことを考えて、これからも防災意識を高めたいな。

地域の方にも防災マップを配布したいな。

自然災害から紫野校区を守るために、自分たちができることが分かり、全校のみんなが今からでも取り組めることを伝えることができた。これからも紫野地域の一員として、地域の人とつながれるように、あいさつをしたり、防災意識をさらに高めたりしていきたいね。